

倉庫マスタ 保管容量分析レポート

データの概要

項目 値
----- -----
全倉庫数 4拠点
登録地域の種類数 4地域 (東京・大阪・愛知・福岡)
保管容量の単位 パレット

地域別 保管容量ランキング

順位	地域	保管容量 (パレット)	全体比率
1位	東京	12,000	31.58%
2位	大阪	10,000	26.32%
3位	愛知	9,000	23.68%
4位	福岡	7,000	18.42%

全体比率の計算根拠: 各地域の保管容量 ÷ 全体合計 (38,000パレット) × 100

全体の集計値

指標	値	計算根拠
全体合計	38,000 パレット	12,000 + 10,000 + 9,000 + 7,000
全体平均	9,500 パレット	38,000 ÷ 4地域

データから読み取れること

最大規模地域 (東京) と全体平均の差異

- 差分: $12,000 - 9,500 = +2,500$ パレット
- 比率: $2,500 \div 9,500 \times 100 \approx +26.3\%$ (全体平均を約26%上回る)

上位2地域 (東京・大阪) が全体に占める割合

- 東京 + 大阪 = $12,000 + 10,000 = 22,000$ パレット
- $22,000 \div 38,000 \times 100 \approx 57.9\%$ (全体の約6割を2地域で占有)

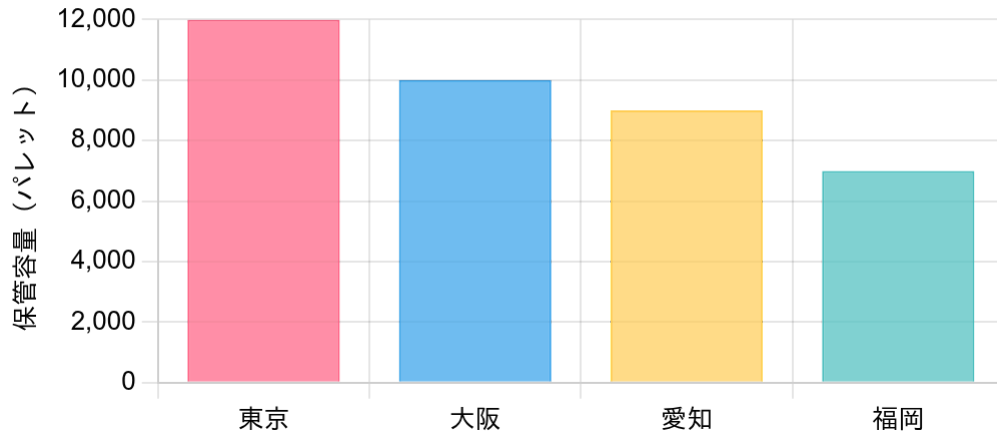
最小規模地域 (福岡) と全体平均の差異

- 差分: $9,500 - 7,000 = -2,500$ パレット
- 比率: $2,500 \div 9,500 \times 100 \approx -26.3\%$ (全体平均を約26%下回る)

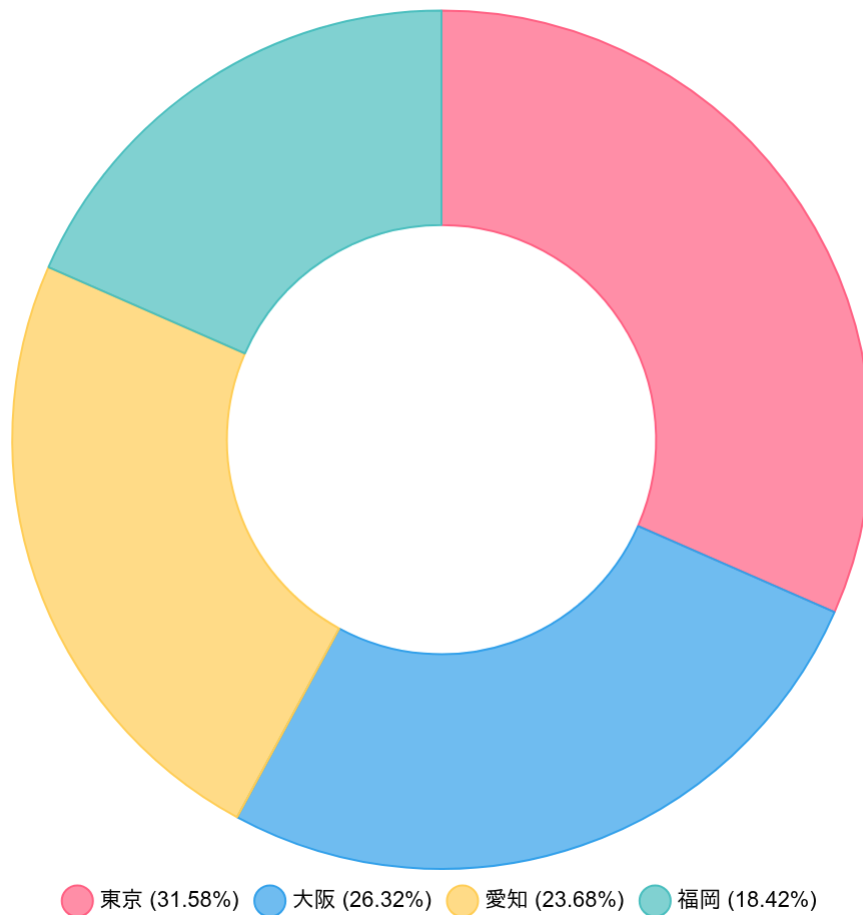
最大・最小間の倍率と差分

- 倍率: $12,000 \div 7,000 \approx 1.71$ 倍 (東京は福岡の約1.7倍の規模)
- 差分: $12,000 - 7,000 = 5,000$ パレット

地域別 保管容量 (パレット)



地域別 保管容量の割合 (合計 : 38,000パレット)



まとめ

大都市圏への集中傾向

今回の倉庫マスターデータを分析した結果、**東京・大阪という2大都市圏の倉庫が全体保管容量の約57.9% (22,000パレット) を占めており、物流拠点が大都市圏に集中していることが明確に読み取れます。**

各地域の特徴

規模	地域	保管容量	特徴
最大規模	東京	12,000パレット	全体平均 (9,500) を2,500パレット (約26%) 上回る最大拠点

規模	地域	保管容量	特徴
中間規模（上）	大阪	10,000パレット	全体平均をやや上回り、西日本の主要拠点
中間規模（下）	愛知	9,000パレット	全体平均（9,500）に最も近く、中部圏の中核拠点
最小規模	福岡	7,000パレット	全体平均を2,500パレット（約26%）下回る九州拠点

地域間格差

最大（東京：12,000パレット）と最小（福岡：7,000パレット）の差は**5,000パレット（約1.71倍）**であり、地域間で一定の規模差が存在します。ただし、4地域すべてが7,000～12,000パレットの範囲に収まっており、極端な偏りではなく、各地域の需要規模に応じた合理的な配置とも解釈できます。

注意事項（さらなる分析に向けて）

保管容量だけでは倉庫の実際の活用状況は把握できません。稼働率（実際の使用量 ÷ 保管容量）や配送データ（配送頻度・配送量）との組み合わせ分析を行うことで、各倉庫が効率的に運用されているか、増設・縮小の必要があるかをより正確に判断できます。特に、東京・大阪の大規模倉庫が高稼働率で運用されているかどうかの確認が推奨されます。